武蔵野市第四期長期計画調整計画策定委員会（第15回）会議要録

■　日　時　平成20年１月８日（火曜日）　午後７時から午後９時27分まで
■　場　所　市役所８階811会議室
■　出席者　田村委員長、酒井副委員長、山本副委員長、加瀬委員、栗田委員、栗原委員、小原委員、前川委員、村井委員、会田委員
企画政策室長、企画調整課長、企画調整課副参事（行政経営・評価担当）、企画調整課副参事（新公共施設開設準備担当）財政課長ほか、傍聴者17名

１　開　会

【委員長】武蔵野市第四期長期計画調整計画第15回策定委員会を開催する。
本日は第四期長期計画調整計画原案（案）について議論していきたい。事務局から資料と本日の議事の説明をお願いしたい。
【事務局】本日の資料は４点。前回の傍聴者意見は既にメールでお送りしたものである。資料２は第四期長期計画調整計画原案（案）。資料３は主な個別計画の計画期間（案）で、調整計画と主な個別計画の期間の係わりを記載したもの。資料４は調整計画原案に出てくる用語の説明（案）である。資料３と資料４は今後調整計画最終案にとじ込むかどうか、委員会で検討していただきたい。
【委員長】個別計画との関連というのは非常に大切であるので、調整計画の５年間との関連を示す参考資料として付けていきたいと考えている。

２　議　事

【委員長】それでは議事に入る。まずこの間の経過報告を事務局からお願いしたい。
【事務局】12月12日第14回策定委員会以降、時系列的に説明する。12月13日に作業委員会を行い、各分野の原案のたたき台を取りまとめた。12月17日には原案たたき台をもとに庁内推進本部との意見交換を行った。その後、各分野随時原案の修正を行い、12月21日の作業委員会では、財政計画の説明及びたたき台の修正版について意見交換を行った。12月24日、正副委員長で作業委員会の意見を反映し、文章の整理。12月25日から29日までの５日間は、正副委員長、会田委員、それから各分野の委員で、分野ごとに文章を精査した。12月30日には、正副委員長と副市長とで全体を見渡しての文章調整作業を行い、原案の第１版を作成。12月31日に委員に送付。１月４日作業委員会で、全体を通しての意見交換等を行った。正副一任を受け、１月６日、正副委員長において最後の文章調整を行った。そして、昨日事務局で最終校正し、本日「調整計画原案（案）」としてお配りした。今後、市議会全員協議会や市民会議、推進本部長との意見交換、また地区別市民ヒアリングを行い、最終の調整計画案に反映できればと考えている。

【委員長】これはあくまでも原案（案）であり、今後意見交換を行い、修正後、市長に答申する計画案となる。

計画原案の構成について説明する。

はじめに、調整計画の位置づけと、市民参加という新しい形の策定方法ついて記している。

次に、第１章の「これまでの成果と情勢の変化」で第四期基本構想・長期計画からの「社会を取り巻く情勢の変化」と「武蔵野市の現況と将来」、また「第四期長期計画の取組みの状況」で、長期計画の大きな課題についての取組みを具体的にあらわしている。

第２章「調整計画の基本的な考え方」で、長期計画を引き継ぐと同時に、調整計画として、時代の変化、今後５年間を目指しどういう形でこの計画をつくっていくべきか、基本的なコンセプトを書いている。「調整計画の重点課題」では、今後５年間の大きな課題について８点挙げている。

第３章の「施策の体系」で、健康・福祉、子ども・教育、緑・環境・市民生活、都市基盤、行・財政の５分野について基本的に長期計画を踏襲する形で考えを進めている。

第４章は「財政計画」。財政計画は状況判断が非常に難しいところであるが、調整計画を裏づけるために重要である。

策定委員会として、これからの武蔵野があるべき姿を、多くの方々の意見を中心に編集した。

今回は新たに市民会議があり、市民代表の方に加わっていただくということで、内容の豊富化に非常に貢献したと感じている。

特に「施策の体系」については様々なご議論をいただいて、市民の感覚や発想の豊かなところと、行政の着実な考え方が非常にいい形でミックスされたのではないかと考えている。

内容について簡単に説明する。今回の計画をつくるにあたって、武蔵野市が受ける影響がどう変わったのかということが第１章の初め、「社会を取り巻く情勢の変化」に書いてある。第１は、地方分権の進展。２番目には、福祉・保健分野での制度改革である。武蔵野はかつてより福祉や保健分野で先進的な政策をとってきたが、国の制度改正が行われる中、そのあたりをどういう形で受けとめていくのかということを議論しながら提案している。

３番目は環境問題。４番目は「都市防災対策の必要性の高まり」。長期計画策定から今日までの間に幾つか大きな震災があり、防災面でも防犯面でも、様々な状況が生まれるなか、安全ということをどのように考えていくのかということ。

５番目は「都市基盤の更新と慎重な行財政運営の必要性」。武蔵野市は市制施行60年で、早くから都市整備を進めただけに、更新の時期も身近に来ている。豊かな財政であったこのまちも、１つの過渡期に来ていることは事実だろう。そのあたりを

大きな問題として受けとめながら、都市基盤や財政の問題をどう解釈していくかということを考えている。

６番目は「コミュニティに対する期待の高まり」。武蔵野はコミュニティということを日本でも先駆けてきたわけであるが、新たな意味で、防犯、防災を初め、福祉、医療、保健、教育、あらゆる意味でコミュニティの役割は非常に重視されてきている。今まであったコミュニティをどう進化させていくかということが問われているということを提案している。

７番目には、「都市型居住の需要の増大」。様々な開発需要も受けとめていかなければいけないが、あつれきが生じてくることも事実。マンションの居住者が人口の半分を超えたという現実もある。武蔵野の環境を語る場合も、公共事業を考えていく場合も、将来に向けて需要がまだ増大してくる可能性がある。

７ページにあるのは、最近の市民意識調査の結果である。

「武蔵野市の現況と将来」は、人口や産業や土地利用がどのように変わってきたのかということ。

「長期計画の取組みの状況」は、長期計画にある９つの課題の進捗状況について書いてある。

第２章の「調整計画全体に関わる基本的な視点」。これは全編を貫く基本的な考えであり、「調整計画の重点課題」は今後の５年間という非常に限られた年限の中での重視されるものについて書いた。事務局でどなたか読んでいただきたい。

（第２章　音読）

これまでの部分に関して、何かあればきたんのないご意見を出していただきたい。

【委　員】７ページのニーズ得点の図の位置について。ニーズ得点の言葉は27ページの、三駅前地域の駐輪場の関係で出てくるので、もう少し適当な場所に移したほうが自然だと思う。また、満足度・重要度の図のタイトルが「散布図」となっているが、分布図、または分散の状況図といったタイトルなのではないか。

【委員長】これはレポートそのものから引いたもの。わかりやすいものに変えてもいい。

【委　員】21ページの下から６行目、「活性化資源」という言葉はわかりにくい。もう少し資源の中身というか、説明が必要ではないか。

【委員長】もう少し具体的に書いていくようにしよう。

【委　員】ニーズ得点の表について。ニーズが高い項目という形で、重要度が高くて満足度が低い項目が囲ってあるが、そこから大分離れて「自転車対策の推進」が飛び地のようにある。重要度が高いが満足度が低いものとしてあるわけで、ここはもっと強調されるような表現のほうがよろしいかと思う。

【委　員】この計画原案は、これまでの評価がやや弱い。行政としての評価が市民に見えてこない。第２章で基本的な考え方を定めたり、重点課題を絞り込んでいく上で、これまでのこの何年間の成果というものをきちんと整理することが重要だと

思う。これは市民意識調査からもってきたものだが、調査結果のなかには、「自分たちの意見が市政に反映されていると感じられる」と答えている市民は非常に少なく、４割の人が「そう思わない」と、３倍の開きがある。市民の立場、受け手の立場から行政サービスを見直すということまで気を配って書いているということが必要なのではないか。

また、「地域の課題解決や、よりよいまちづくりのためには市民が主体となり、自分たちができることは自分たちで行い、自分たちで解決できないことを行政と一緒に取り組むべきだ」という設問に対して、７割の人が「そう思う」と答えている。コミュニティとか協働とかといった仕組みを整備するということを書いているのは、市民の意見を踏まえているということを表に示したほうがいいのではないか。

【委員長】ここは実績について書いてある。新しい方向に転換するときのつながりとしてこの位置でもいいと思うが。

【委　員】趣旨はよくわかるが、読んでいく中で、唐突にニーズ得点がでてくることに違和感がある。ニーズから市政の向かうべき道が見える、というような形にしたほうがいい。

【委員長】計画というのはこのまちの可能性を引き出すためのテキストであると考えている。基本的な考え方を第一、第二、第三と、３つの大きなかたまりにしているのは、１つは的確な状況判断がこれからの自治体行政に必要だということ。２番目には、武蔵野が伝統としてきたもの、武蔵野市的なヒューマニズムがまちの原動力だと思っている。３番目は、創造力とか元気さ。行政の問題だけではなく、賢明な市民たちが支えてきたもの。そういったものをあらゆる意味で生かすべく自治体がどうサポートしていけるのかというのが、今回の基調だと思っている。

【委　員】ニーズ得点について。ニーズという言葉を使うのが本当に適当なのかどうか疑問だ。これは市民が意識しているニーズであり、例えば上・下水道の再整備の問題などは、浄水場の老朽化のことを市民の方が知っていれば、また違った結果になるのではないか。一応、要望が高くて満足しているといえる。ただ、それが本当に市民にとって必要なことなのかどうか。ニーズというのは、必要性のことを意味する場合があり、慎重な説明が必要なのではないか。要望とニーズは、本当は分けないといけない。そうでなければ、この図のとおり施策を進めていけばいいということになり、弱者や少数の方の意見というのは、なかなか反映されないのではないか。

【委員長】意識のほうが要望よりも表層的に考えられるということ。

【委員】おそらく意識と要望はかなり近いと思うが、ニーズというのは、認識されない必要性を含んでいる。元気で若い方にとっては防災の問題は余り意識されないが、ひとり暮らしの高齢者や障がい者にとっては、とてもニーズが高いことだと思う。しかし、それを本当に意識しているかどうかということは、別の問題になる。命の問題はニーズが高いと思うが、それを市民の要望の順で行くと、果たしてどう

か。この図を見ると、ニーズがある程度満たされている項目ということになっているので、もう上・下水道の問題はいいじゃないかという話になる。しかし、実態としては、とても危険なところにあるというのが策定委員会の認識であるので、慎重に注文（ちゅうぶん）をつけていただけたらと思う。

【委　員】若干報告書にミスリーディングなところがある。「ニーズ」という言葉で満足度と重要度の高い、低いを要約してしまうのは、社会調査法としては余りよくない。例えば、表の前頁までは、長期計画の取組み状況が書かれているので、市がやったことを市民がどう評価し、加えてそこから課題にプライオリティーをつけていくといった組み立てにしてはどうか。

【委　員】その方向でよろしいのではないかと思う。自転車対策だけが突出して図に対する言及があり、違和感があるので、今のご意見のように編集すればいいのではないか。

【委員長】では、第３章「施策の体系」について。長期計画にあわせ、「健康・福祉」「子ども･教育」「緑・環境・市民生活」「都市基盤」「行･財政」と、５つの分野に分かれている。まず、健康・福祉分野の委員から、基本的な考え方、構成といったものを簡単にご説明願いたい。

【委　員】討議要綱のパブリックコメントやヒアリングの意見を項目別に整理し、論議して作成した。長期計画と比べ、健康という部分に介護予防を含めて少し深め、障がいの部分が具体的に補足されている。他にも、長期計画は理念的なものが多かったが、今までの経過、今後やるべきことを具体的に記述した。基本的に地域福祉をよくするには、今ある資源をもう一度きちんとつなぎ合わせて、それをどう利用するかというところから始めなければいけない。そういうシステムを地域にどうつくるかということを大きな視点に置いて論議してきた。そういう意味では、地域リハビリテーションという概念にこの意味を要約している。今後、医療と介護を結びつけていくうえで、１つのシステムとして組み立てていくもとになる考え方だという点は開けてきたのではないかと思う。

地域包括支援センター、在宅介護支援センターが、相談窓口として機能するものとして地域に確立してほしいという要望が強かったが、ここで機能が整理されて、役割を今後も深めていくということで、介護を中心とした地域のつくり方というものの方向性がはっきりした。

もう１つは、医療の問題。後期高齢者医療制度が始まることにより、非常に重要になってくる。医療ネットの充実という形で、日赤を中心としたもの、24時間体制など、ある程度具体的に問題提起がなされており、地域リハビリテーションの有識者会議で医療と介護の関係性と、地域で安心した生活を送れる体制をどうつくるかという点では、ある程度具体的に方向づけができた。

したがって、今後この問題に取り組んでいくことに市民と市がどのような姿勢を保っていくかということが、課題として読み取れることになったと思う。

また、市の責任というものを確認できたことは、相当問題が明確になった。

私としては、市民会議、討議要綱に基づく論議、それからこの原案と、全体を通して一貫したものとしてずっと追求できた。ただ、これから具体化するのは市の責任もあり、市民がしっかりした問題意識で取り組まなければいけない。その市民のやるべき課題も、明確にされたという点で、調整計画案として問うに値するものを皆さんの力でつくっていただいたと思っている。

【委　員】今回の計画の大きなテーマは、自助、共助、公助とか市民の連携とかいうものを、どのように機能させ、組織化していくかということが１つ。

もう１つは、行政のサービスが、市民の福祉の向上にどのようにつながっているのか、そのことを市民がどう受け取っているのか。受け手視点というのをどういうふうに全体として浸透させるかというのは非常に大きい論点で、子ども、子育て、あるいは青少年、あるいは教育というところに、浸透させていった結果、全体としてかなり具体的であり、ある種共通の方向性のある施策体系につくり上げることができたように思っている。

３点目は、武蔵野プレイス（仮称）。生涯教育も含め、これからの武蔵野市のまちづくりの中にどういう形で位置づけ、その効果を波及させて、市民の生活全体の文化や教育や様々な活動の活性化につなげていくかというのが、今回の大きい戦略。

事業の見直し、統廃合、体系化といったものが、プレイスが出来ることによって、ようやく課題として浮き上がってきた。そういうことを具体的に詰めながら、この調整期間中は、ある１つの飛躍の準備の期間である、というように議論を詰めていった。

【委　員】緑・環境・市民生活では、大きく２つテーマがあった。

１つは、コミュニティと協働というテーマ。いろんなところで行政と市民の協働でこれからは進めていくということが書き込まれているので、そう読んでいただけるとありがたい。

もう１つは、武蔵野というまちをこれから発展させていくための視点。産業・観光・市民文化に主にかかわる内容として書き込まれている。特に産業では武蔵野ブランドという市民からの提案も入っている。

14項目あるので簡単に説明する。

初めに「持続可能な都市の形成」。重点課題も含めて地球温暖化は非常に大きな課題であるということが表現されている。それと同時に、循環型社会に向けて、市民と事業者と行政の協働を今後更に進めていかねばならない。ごみの問題については、従来はリデュース、リユース、リサイクルということがよくいわれたが、基本的にはごみの発生抑制、減量が大きな課題だということを書いた。

２番目の「緑豊かな都市環境の創出」と、３番目の「身近な自然の回復と保全」は緑にかかわるもの。公園緑地リニューアル総合計画の策定や、公園の整備・運営を市民参加で、行政とともに取り組んでいくこと。緑化については、従来緑被率30

％という目標があったが、現実的には難しいということを踏まえ、これからは緑の質を高めていくことを目指そうということを書いた。

４番目に「農業の振興」。農業振興基本計画に基づく成果を検証しながら、積極的に都市農業の振興を進める。同時に、農家と地域の方たちが協力し、助け合うことができる形をつくっていくということを意識しながら書いている。

５番目が、「商工業の振興」、６番目が「都市観光の推進」。武蔵野ブランド、武蔵野というのはどういう場所なのかということをイメージしながら産業を振興していくということ。

また、今回新たに起業について書いた。吉祥寺、三鷹周辺に起こっている新しい形のビジネスを支援していく。

路線商業に関しては、地域の中で路線商業の方たちが担っている役割が非常に多く、路線商店街の活性化に地域の人たちの力やアイデアを生かし、地域と路線商店街がつながって活性化に取り組んでいければいいのではないか。

就労支援は、基本的にはハローワークと連携していく形になる。

都市観光については、武蔵野というまちをどう活性化していくのかという視点から書いてある。

７番目は「消費生活の推進」。

８番目は「防犯性の高い快適なまちづくり」。人と人とのつながりを豊かにしていくことが防犯につながるという視点で書いている。

９番目の「防災体制の強化」も、地域の防災力の向上のため自主防災組織づくりを進め、お互いが助け合う仕組みをつくっていくということを書いた。

10番目、「市民活動の活性化と協働の推進」では、コミュニティに関しての様々な課題・現状を確認し次に進むため、第六期コミュニティ市民委員会を行う。

市民協働サロンができ、協働の１つの足がかりが整備された。プレイスにも市民活動サポートセンターがつくられる予定であり、市民協働のハンドブックも作成されることから、行政と市民が手をつなぎ、行政だけでは担い切れない課題への取組みを進めていけるように考えて書いている。

11番目は「男女共同参画社会の実現」。男女が仕事と家庭の両立を図れるようにと書かれているが、ワーク・ライフ・バランス、仕事と生活とのバランスをとりながら生活を豊かにしていく方向にいけるといいのではないか、と思いながら書いている。

12番目は「都市・国際交流の推進」。交流事業は成果をお互いに還元されるよう検証し、交流を工夫していくことを書いてある。

13番目「生涯スポーツの振興」は、市民誰もが、障がいのある方などスポーツに取り組むことが困難な方がどうすればスポーツに取り組めるか、ということを学ぶような形で講習が組めるといいのではないかと思いながら書いている。

最後が「特色ある市民文化の発展」。これからの文化というのは、さまざまな有形

無形のものの広がりとつながり、そこから生まれてくるものだと思う。吉祥寺は、ほかのまちでは見られないような新しい文化が生まれてくるまちであり、そういうまちの活力を文化の１つのあらわれとして活かしていく。そのためには、文化だけでなく、産業とか観光といった視点も持って武蔵野というまちをどういうふうにこれからにぎやかに発展させていくのか、豊かなまちにしていくのかということをあわせて考えていくということをこの部分に書いている。

【委　員】市民会議の意見を考慮し、書き上げたものをベースに、事務局と調整した。例えば、商工業、産業の部分でも、順番を変え、前は吉祥寺商業活性化がトップに来ていたが、起業や中小事業者支援からまず始めようという形で、微妙にバランスを変えている。市民活動の活性化も、動きのある部分なので、長期計画に比べ３倍ぐらいの分量に増えているのではないか。そういう形でかなり変わっているところを見ていただければと思う。

【委　員】都市基盤は、交通の問題、上水道、下水道など、専門的な内容が多いので､ワーキングの方と具体的な事業の進捗状況や中身を話しながら整理をしてきた。「計画期間の個別計画」にあるように、都市基盤は８つ、構想から計画まであり、既に終わっているもの、グランドデザインなどこれから実行に移る段階のものもあるが、調整計画期間中に改定しなければいけないものがある。都市マスタープランについては22年に策定から10年目を迎える。まちづくり条例とあわせて柱として考えていく。

都市基盤は、事業は着々と進んでいるが、市民にはわかりにくい。長期計画の項目立ては施策の担当順に整理されていたので、行政としては読みやすいが市民には読みにくいという欠点がある。そこを工夫し、わかりやすいものにした。

まず、項目であるが、長期計画では11項目だったものを、１項目増やし12項目にした。上・下水道は重要度や施設の性格の違いということから二つに分けた。

項目の１から３に､都市基盤の仕組みや骨格や視点というところにかかわること。次に、いわゆるインフラ整備というハードの部分の更新が必要だということで、上水道、下水道、道路ネットワークの整備について、４から６にまとめた。

３番目はソフトやシステムに関することで、７から９に交通体系の整備と住宅施策について。

最後に吉祥寺、中央、武蔵境の三駅圏整備について10から12にある。

なるべくわかりやすく書いたつもりだが、その辺はお読みいただいて、ご意見を伺いたい。

討議要綱の問いかけにあった道路については、人とか自転車のことを考えた道路にということの方向づけをしている。

住宅施策にどこまで踏み込むかという問に関しては、補助等の支援に対しての意見は余りなかったが、高齢者が住み続けられる支援は必要であるという意見はあった。現段階では、まず現況を知ることが重要であるということで、住宅マスタープ

ランの改定の中で検討していくということになった。

中央圏にセンター的なものをという問に対しては、三駅圏の整備の中で、それぞれのフェーズが違っているということがあり、中央圏にセンターを設置することは今回の計画では書き込めてはいない。

【委員長】今回感じたことは、都市基盤に市民が参加するというのは非常に難しいということ。的確な技術の適用、長期的な持続性、事業に伴うコストや地域社会の影響が大きい。これは行政が指導せざるを得ないところではある。ところが、一番問題になったのは、都市基盤の事業という問題以前に、その説明が不足している。情報が開示されていないという形で、むしろハードというよりもソフトのほうに問題がある。市民参加というのは、市民の意向を聞くことも大切だが、行政が丁寧に説明をしていくことも大切。その双方向がなければいけない。

都市基盤は特にそういうところが非常に強い領域。武蔵野市は財政力が豊かであり、ほかのまちよりもはるかに水準の高いことをしている。ところが、その意味が市民に伝わっていない。丁寧に説明されていないというのが、この都市基盤の一番大きな問題。技術的な問題があったり、独特の事業構造があること以上に、この話をどう市民と共有していくのかということがまず大切だという視点で、項目の順番を市民がわかりやすい都市基盤の整備の問題から整理している。

【委　員】行・財政分野は、市民との協働ということが今回の一番大きなテーマになっている。そこの部分で情報が伝わってこないということと、市民が何をすべきなのか、職員は何をどうするべきなのかということについて書いている。

市民会議の提言書の内容が、表現やニュアンスは若干違っていても、ほとんど盛り込まれている。

重点課題の４と８に書き込まれているので、それを読んでいただくことと、行・財政分野の「５　時代の変化に対応する柔軟な行政運営」。特に職員の方の意識改革というところ。やはり一番苦労したのは情報、広報の方法についての行政の理解が市民とかなり違っていたというところ。市民と協働するときに、市民に必要なもの、例えば情報や、学ぶ場が欲しいということを理解していただくことに苦労した。職員の意識を変えることがどういうことなのかということをなかなか理解していただけなかったので、今後の課題だと思っている。

【委　員】他分野からの説明もあったが、ベースになっているのは長期計画である。行・財政分野でいうと、集中改革プランが当然の前提である。加えて、市民会議の意見を織りまぜていくというスタイルで書かれたものである。

項目は長期計画と比べてもほとんど重なっている。「協働」「パートナーシップ」「民間委託」という言葉も長期計画で十分使われている言葉である。今まで、そういう言葉を使っていく際のスタンスが、市の行財政をどうスリム化していくかということに重点が置かれがちであったが、市のスリム化というのは同時に市民自治が大きく広がっていくチャンスでもある。そういう発想で書き方を工夫したり、整理

し、長期計画の枠内ではあるが、調整計画の新味があるということなのではないかと思う。

【委員長】今後は５分野で全体的な統一をはかり、できる限り丁寧に説明していく形で進めていきたい。

次に、財政計画について説明をお願いする。

【事務局】それでは、財政計画について説明する。

財政計画の策定方法については、125ページに記載してあるとおり。129ページ図表９中、歳入・歳出とも、「合計額20～24年度」と、その右に参考として17～21年度の長期計画の計画額を載せた。比較すると、全体で125億増えている。歳入増は市税で、定率減税の廃止や景気の回復等の見込みを加味している。

歳出は、人件費、公債費が減。投資的経費は83億増えている。

図表11「基金と市債等の残高見込み」は平成24年度で基金は123億まで減少するが、市債は239億で若干減少しており、健全性は維持できていると判断している。

【委員長】財政力指数1.6は他市と比較して健全ということか。

【事務局】全国的にも平成19年度の財政力指数は３位で、大体武蔵野市の場合は１位から３位ぐらいの間にいる。

【委員長】調整計画期間中は大丈夫だという感じがするが、もう１つその先、この５年間を過渡期にして、そこでどういう財政需要ができてくるかというあたりは、非常に厳しい面もあると思っている。

今後は議員を初め市民会議市民委員、地区別市民の方と意見交換をしていくが、丁寧な議論をしながら、できる限り建設的な議論を進めていきたい。

３　今後のスケジュールについて

【委員長】最後に、事務局から今後のスケジュールを説明してほしい。

【事務局】今後のスケジュールは、13日に作業委員会、17日に市議会全員協議会を公開で行う。その後は、23日に庁内推進本部長との意見交換、地区別市民ヒアリングと市民会議委員との意見交換。また、パブリックコメントについても、案が固まり次第行っていく。

広報については、データは早速ホームページで掲載し、本書は15日を目途に市政センター、コミュニティセンター等で配布する。

市報は要約版を23日に特集号という形で発行。そういう形でパブリシティを図っていきたいと考えている。

最終の調整計画案は２月11日の策定委員会で決定後、市長に答申する予定である。

【委員長】本日をもって調整計画原案ということで承認いただいて、策定委員会としてよろしいか（了承）。

それでは、これを原案として、議論の素材とさせていただく。